

# Book Review

## 顎関節症 スプリント療法ハンドブック

顎関節症臨床医の会 編

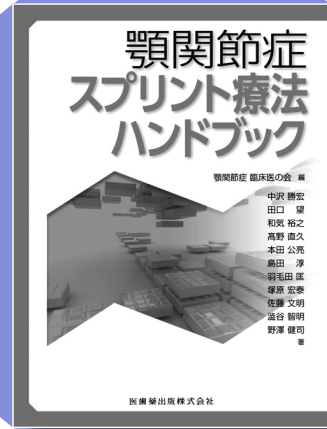


Reviewer

古谷野 潔 Kiyoshi Koyano

(九州大学大学院歯学研究院 インプラント・義歯補綴学分野)

A4 判変, 144 頁  
オールカラー  
定価 (9,000 円+税)  
医歯薬出版刊



スプリントは顎関節症治療に頻繁に用いられるが、これまでにさまざまな理論、デザインそして使用方法が提示されてきた。そのためか、私の大学で紹介されてくる患者が持参する、前医が作製したスプリントを見ても、その材質、デザイン、使用法はさまざまで、なかには、かえって害を及ぼす危険性があるように思えるものもある。どのような考え方にそって、どのようなデザインのスプリントをどのように用いていけばよいか、一般臨床医の間で情報の混乱があるのではないだろうか。

本書は、顎関節症の臨床に熱心に取り組んでいる臨床医の集まりである、「顎関節症臨床医の会」が、スプリント療法についての考え方と実際について、一般臨床医の日常臨床に役立つことを目指してまとめたものである。11名の著者が議論を重ね、コンセンサスを得た共通の基盤のうえに、それぞれの臨床例を提示する内容となっている。その基盤は、科学的エビデンスを踏まえたもので、たとえば、スプリントの治療効果に関する著者らのコンセンサスは、以下のようにまとめられ

ている。

1. スプリントは筋肉に対しての直接的効果は期待できない
2. スプリントは顎関節部の機械的負荷をコントロールできる
3. スプリントは損傷を受けた顎関節部の治癒を促すことができる

また、スプリント療法で必ず問題となる設定すべき下顎位についてもコンセンサスを得て、それを明示している。

本書の内容を順に見てみると、まず、日本顎関節学会の「顎関節症の概念」「顎関節症の病態分類」などを紹介し、現在の顎関節症の考え方とスプリント療法の役割について整理している。次に、スプリント療法を行うにあたっての基礎知識を、日本顎関節学会のガイドラインや日本補綴歯科学会のテクニカルアプレイザルなどを引用して整理し、他の治療法と併用して総合的に用いることを提示している。

以上の総論部分の次に各論として、材料、下顎位、形態、厚み、咬合接触、ガイド、調整、使用期間、症状が改善しないとき、悪化したときの対処法などのスプリント療法の具体が記述され

ている。そして、スプリント製作の実際について、チェサイドと技工室での作業に分けて、懇切丁寧に解説がなされている。

これらの基本を踏まえて、次に10名の著者によって19の症例が提示されている。さまざまな症例に対するデザインやアプローチ、他の治療法との併用、経過など、スプリント療法の実際が示されているので、日常臨床で遭遇するさまざまな患者の治療に応用できるものがみつかるとはならないだろうか。また、読者は、実際の治療のなかで、前半で解説されたエビデンスに加え、ナラティブを踏まえることが重要な役割を果たして治療が展開されていることに気づくであろう。

そして、最後にまとめとしてスプリント療法の種類と製作法、適応となる病態、そして使用時のポイントが簡潔にまとめられている。

このように、本書はスプリント療法について、エビデンスを踏まえつつ日常臨床にすぐに役立つ内容をわかりやすく整理したもので、明日からの臨床に有効に活用できる書物である。